

【概要・目標】

環境保健学特論での学識を基盤として、環境が人に及ぼす影響について、集団を対象とした健康評価を行い、その結果を基に保健活動を実践する能力を養う基礎的な方法を習得する。環境による健康障害のリスク要因について専門的な分析が行え、予防策・解決策としてその要因を取り入れる際に、専門職として必要な理論や方法を学ぶ。また、学生自らが研究課題を見出す過程に重点が置くことで、修士論文作成に繋がる。

【授業内容・スケジュール】

受講生と協議しながら、具体的な授業計画を組み、テーマの設定が進行するようにする。基本的な流れは以下の通りである。

- 1) ～ 5) 環境保健学特論で学んだ内容に関連させて、実施可能な研究テーマを設定する。
 - 6) ～ 1 2) 関連する論文に対して、環境保健学特論で学んだ内容を活かして、研究方法、解析方法などの視点から検証を加え、研究課題を検索する。
 - 1 3) ～ 1 5) 自ら研究を行えるように研究計画書を作成する。
-

【評価】

評価方法は、受講態度 (30%)、レポート (70%) で、総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて提示する。

【推薦参考図書】

必要に応じて提示する。

【その他】

第 1 回～第15回は、プレゼンテーションとディスカッションによる学生主体の講義を行う。

連絡先：牟礼佳苗 kana@wakayama-med. ac. jp